

授業科目 神経系評価学

【担当教員名】 ○ 高木 昭輝 山口 明（非常勤講師、＜2回＞）	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	前 期	必修・選択	必 修
	単位数	1 単位	時間数	3 0 時間

＜一般目標：GIO＞
理学療法が対象とする神経系障害に対して、神経学と理学療法の臨床の知から蓄積されている評価学を学ぶ。

- 【＜学習目標＞又は＜行動目標：SBC】
- 1 理学療法が対象とする神経系障害の代表的な症状を病態生理学的に説明することができる。
 - 2 自分で表現した特徴的な症状からどのような理学療法的評価をしたら良いか列挙できる。
 - 3 代表的な神経系障害に対して、痛みを含む理学療法的評価の方法を想起し、列挙することができる。
 - 4 他部門からの情報も考慮し、優先順位を含めて、評価順序を含めて考えることができる。
 - 5 これまでの情報から、理学療法的治療のために問題点を列挙することができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション		講義
2	神経系障害の代表的な症状を考える。 1 (CVA, MS, ALS, Parkinson's)	1, 2	教員の演示と説明。ビデオ、スライド
3	神経系障害の代表的な症状を考える 2 (Gullain-Barre, polio, SCI etc.)	1, 2	教員の演示と説明。ビデオ、スライド
4	神経系障害の代表的な症状を考える 3 (.SCD, leprosy, CP etc.)	1, 2	教員の演示と説明。ビデオ、スライド 山口 明
5	2回目の例に対する理学療法的評価(診断)をまとめる。(8回目発表準備)	1, 2, 3	講義及び学生同士で協議する。
6	3回目の例に対する理学療法的評価(診断)をまとめる。(8回目発表準備)	1, 2, 3	講義及び学生同士で体験する。
7	4回目の例に対する理学療法的評価(診断)をまとめる。(8回目発表準備)	1, 2, 3	講義及び学生同士で協議する。
8	すべての学生が個人発表を行う。	1, 2, 3	全員が発表を担当する。
9	2回目の例の他部門からの情報、優先順位を含め理学療法的評価(診断)をまとめる。(12回目発表準備)	1, 2, 3, 4	講義及び学生間で協議する。
10	3回目の例の他部門からの情報、優先順位を含め理学療法的評価(診断)をまとめる。(12回目発表準備)	1, 2, 3, 4	講義及び学生間で協議する。
11	4回目の例の他部門からの情報、優先順位を含め理学療法的評価(診断)をまとめる。(12回目発表準備)	1, 2, 3, 4	講義及び学生間で協議する。
12	個人で説明と演示を行う。	1, 2, 3, 4, 5	全員が個人で説明を行う。
13	個人で説明と演示を行う。	1, 2, 3, 4, 5	全員が個人で説明を行う。
14	まとめ	1, 2, 3, 4, 5	講義と狭義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	理学療法の捕らえ方-clinical reasoning-：奈良 勲編集：文光堂：2001年：4800円＋税(予定)			
参考書	理学療法技術ガイドブック：2001年：文光堂 臨床理学療法マニュアル：1996年：南江堂ほかにも提示する。			
その他の資料	カラーで学ぶ解剖生理学：州崎悦子 他 訳：医学書店：1998年：5600円＋税(予定) 神経系化雨滴理学療法：真野行生監訳：2001年：医薬歯出版：4000円＋税 他に高木が補足資料を作成します。			
【評価方法】	【履修上の留意点】			
期末試験、授業貢献度、発表などを総合的に評価する。				

神経学的理学療法 (スポン・エワード / 42632112x)